

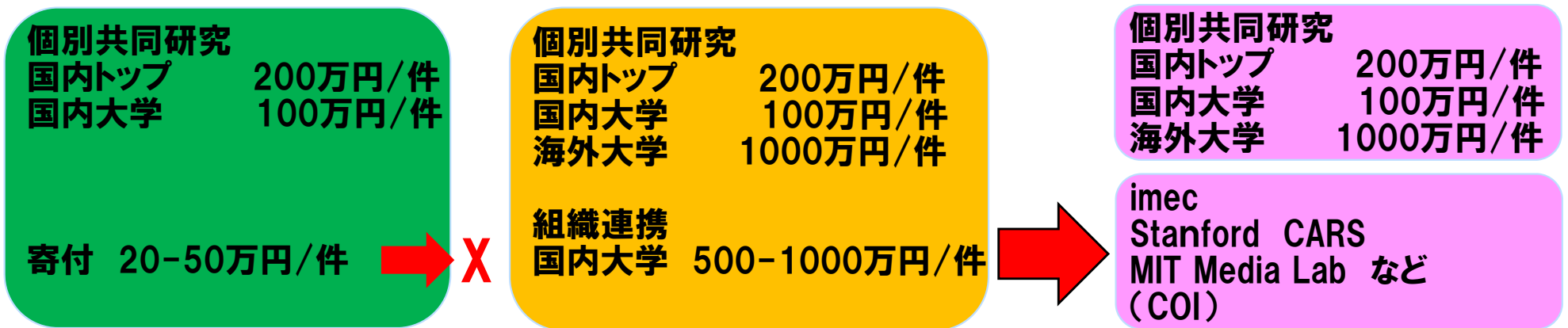
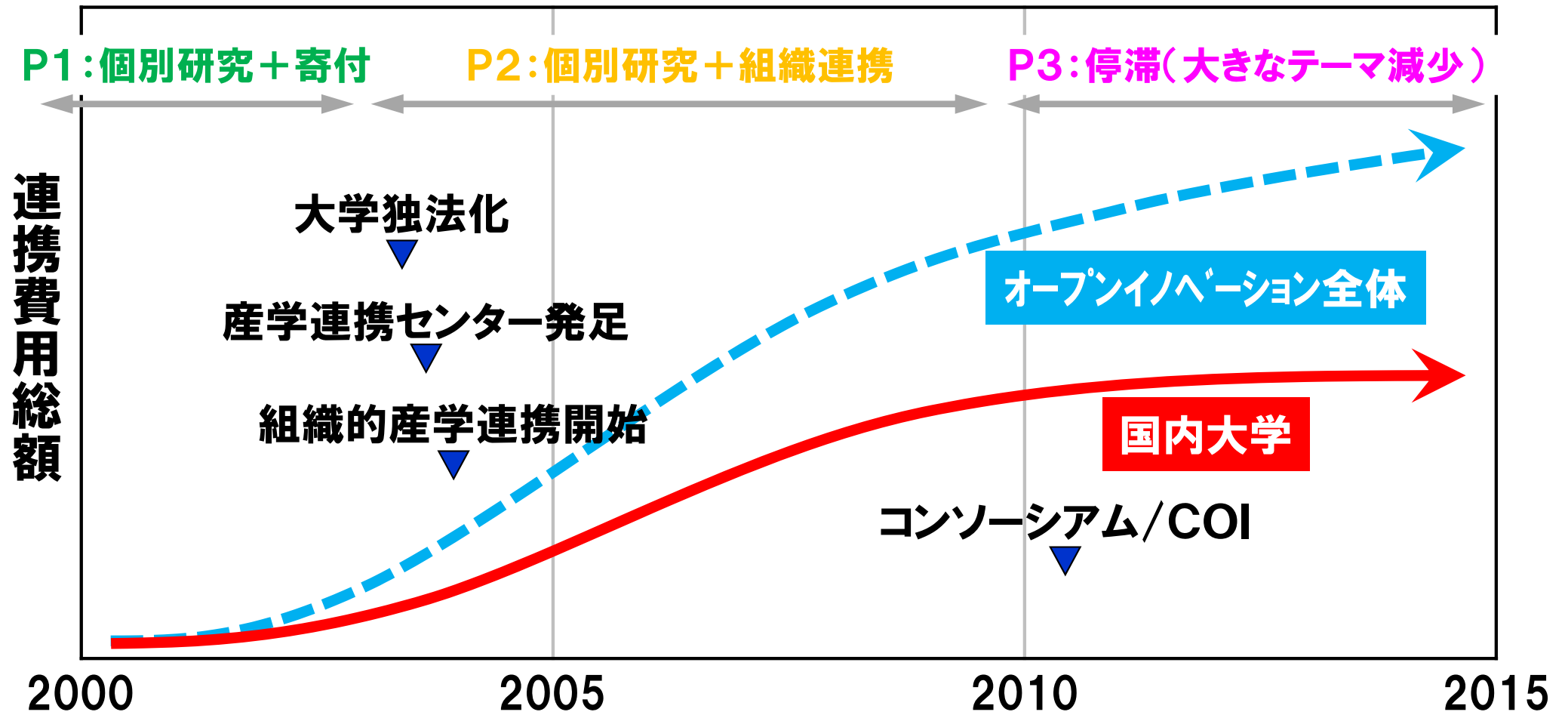
パナソニックにおける産学連携について

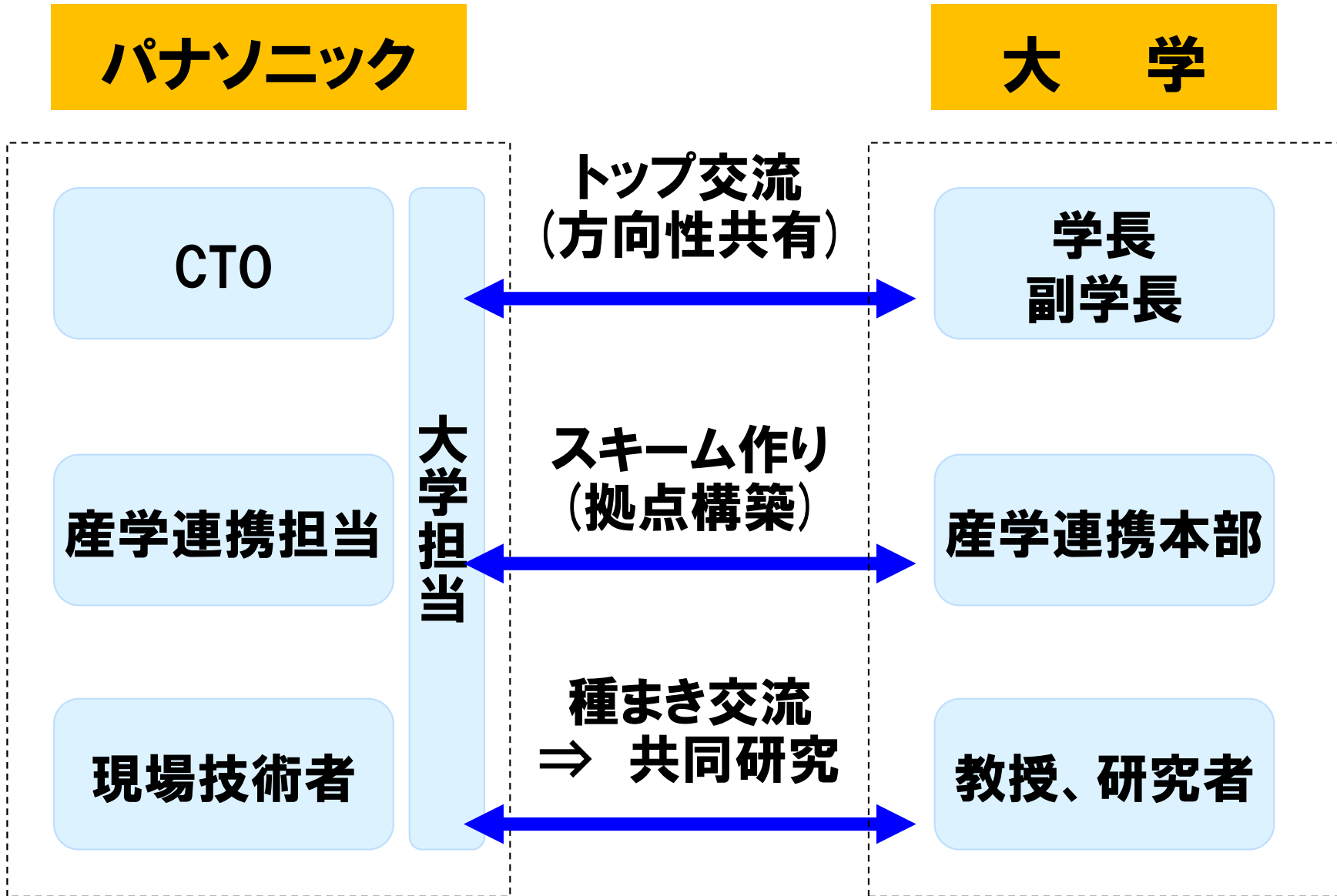
1. 産学連携の経緯
2. 組織連携マネジメント
3. まとめ
4. 大学発コンソーシアム
5. R&D会社の利用

2015年 6月26日

パナソニック株式会社 フェロー

上野山 雄





大学と高い共通の目標を掲げ、互いに挑戦する!!

フェーズ1：国内大学とのお付き合い寄付（～2003年）

- ・個別共同研究：100万円～200万円/件
- ・大学研究者との個人的な繋がり、お付き合い（寄付）：20万円～50万円/年

フェーズ2：大学との組織連携に基づく共同研究（2003年～2010年）

- ・寄付金はほぼゼロへ
- ・真剣勝負の共同研究を模索（企業ニーズと大学シーズのマッチング）
組織連携テーマでは500万円～1000万円/件
- ・大学との組織連携ブーム、研究マネジメントが不十分

フェーズ3：共同研究活動が停滞気味、大きなテーマの減少（2010年～現在）

- ・企業の求める研究内容の変化（whatを生み出すことに重点化）
個別技術課題解決→ソリューション（社会課題解決や付加価値を高める）
- ・テーマ公募やテーマ合宿等の取り組みも実を結びにくい
- ・コンソーシアム型連携など異なる枠組みの開始（大学側からの提案）

CARS: Center for Automotive Research at Stanford

- 自動車メーカーやエレクトロニクス企業など30社程度
- 大きな共通課題である未来の自動車のあり方を探る
(法整備など人文社会系も含む)
- 競争より協働を重んじ、シリコンバレーの世界先端の自動車技術に関するスイス (産業界の中立の研究機関)
- 年会費 : 3.2万ドル (合計約100万ドル)
(研究開発テーマは別途当該研究室とクローズ契約)
- VW/Audiは新しい建物向けなど575万ドル提供 (寄付)
- 研究開発テーマは、
 - 「車両制御技術」
 - 「車両インターフェース」
 - 「環境認識技術」



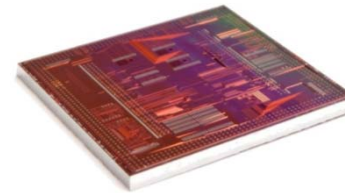
CARS Affiliates

【CARSの特徴や利用メリット】

- 「未来の自動車」との大きな社会課題への対応
- 世界中の多くのプレイヤーが集う規模感、中立性/自由意志
- オープンとクローズの使い分け、スピード感を持つ組織運営
- PM等の有用人材 (学外から)



- ・半導体微細加工
- ・システムLSI



【概要】

- ・ imec : Interuniversity Microelectronics Center
- ・ 1984年にベルギー・フランダース州政府の支援で研究開発機関として設立
- ・ 強みはCMOS微細プロセス、パナソニックとは補完関係（10年以上の協業）
- ・ 予算規模：363Mユーロ（2014年）
- ・ パートナー：Intel, Samsung, TSMC, Micron, Qualcomm, ソニー等

【特徴】

- ・ 研究会社として自立する経営：顧客第一主義
- ・ 意志決定スピードの速さ：トップダウン方式

クライアントの要望に対しては絶対に応えようとする姿勢